

《教育長メッセージ 第9号》

『学級』

海老名市の小中学校では、20人から40人の子どもたちで一つの学級が作られています。(特別支援学級は小規模となります。)

そこに、基本的には、1人の教員が学級担任として配置され、学年としての一年間、子どもたちと生活や学習をともにします。



保育園や幼稚園等でも、子どもたちは集団生活を経験しますが、学級では、小学校6年間、中学校3年間の義務教育9年間で、発達段階に応じて、子どもたちが、将来、社会で生きて働くための社会性を計画的に育むことが求められます。

私は、海老名市の小学校で19年と7カ月、学級担任をしました。奇跡の命である子どもたちは、それぞれに違い、それぞれに長所や短所があり、それぞれに大切な存在です。

しかしながら、それぞれの違いは、集団生活の中では、面白くもありますが、とても大変なのです。

集団生活は、それぞれの家庭の文化で育った子どもたちですから、良いとか悪いとかではなく、意見が食い違います。ただ、みんなが気持ちよく、楽しく過ごせるためにはと、食い違った意見を整理し、納得できるようにしていかなければならないのです。

ケンカをしたり、イジワルをしたり、さまざまな問題が起こります。しかしながら、数カ月が過ぎると、一緒に過ごした時間と絆から、たいていの場合、問題は消えていきます。

そう考えると、学級は問題を起こさない場ではなく、問題を解決する経験を積む場です。子どもたちが、教員の支援を受けて、自分たちの生活をより良くするために、自分の役割を果たし、意見を調整して、気持ちよく楽しく生活する場なのです。

人間は、その起源から、家族や地域でコミュニティを形成して命をつないできました。子どもたちにとって学級で過ごす集団生活の9年間は、人間として、より幸せな生き方を学ぶ重要な機会であるのです。

だからこそ、私は、学級の中で、すべての子どもに、仲間と過ごすことの喜びを十分に味わってほしいと思うのです。

次回は、『手本』について、あれこれ思いを伝えてみたいと思います